

【パブリックコメント】第2期教育振興基本計画案 意見募集(パブリックコメント)対応表

番号	意見	修正有無	意見に対する回答
1	芽室町教育振興基本計画(案)拝見いたしました。今まさに日本の義務教育の危機が叫ばれている最中、町民に意見を求めている姿勢に感銘を受けました。しかしながら、教育振興基本計画案からは、結局教育者の決めた型に子どもをはめていくやり方は変わらないように見受けられました。なぜなら、結局幅広く万遍なく同じ知識同じ身体能力、全体のバランスがいい人間を育てようとしているように感じたからです。それでは全く従来通りのやり方に過ぎず、これから先の時代に求められるような、子どもが自らカリキュラムを選び自ら学んでいく意欲を尊重するやり方にはほど遠いと思いました。小学一年生であっても、自ら選択して決断して取り組む力は備わっていると思います。 自ら選び、時間の制限なく集中して取り組み、その中で必要な技術を、実用可能な数学や社会学や美術やいろいろな学びを通して深めていくことが理想なのではないでしょうか。子どもが選んだ学習を大人がサポートするというやり方ならば、子どもの主体性や考える力をそだてることができると思います。大人が選択して決断するという従来のカリキュラムではなく、子どもが選択し決断するというカリキュラムへ、未来のために大人が意識を変えなければならない分岐点なのではないでしょうか。そうでなければ、結局なにも変わらないと思います。	無	本計画では、持続可能な社会の創り手を育むため、確かな学力と社会の変化に対応する力の育成を目指し、社会的、職業的な自立等につながる資質、能力の育成を重視しています。 そのため、ICTを有効活用し発達段階に応じて、全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現するよう取り組んでいるとともに、一人一人の習熟度に合わせて最適な問題を出題するAIドリルを独自に導入する等、基礎学力を定着させる取り組み等を実施しております。 今後も第2期芽室町教育振興基本計画を元に、確かな学力を基礎に社会の変化に対応する力の育成のため、児童・生徒に対して個別最適な学び等の充実を図っていきます。
2	教育振興基本計画案を拝見させて頂きました。その中で、「施策目標3 持続可能な地域づくりを支える教育の推進」の中で、上美生の山村留学について意見いたします。 山村留学について、山村の関係者の皆さんがさまざまな方法で募集をかけ人口を増やそうとしている行動には多様な感謝しています。しかし、現実を見ると山村に来る子供は馴染めず、地元の子供達をイジメています。私の子供もイジメにあいました。この山村留学は地元の子供に我慢をさせる事業なのでしょうか。 今南小学校を芽室小学校に統合の話も出てる中で、今後上美生小学校も同様に統合を考えるべきではないかと思います。いくら山村があったとしても子供が増えることは無いと思います。どこかで区切りをつけないきゃいけないのであればこのタイミングではないでしょうか。	無	山村留学生として来ている児童、生徒を問わず、芽室町教育委員会では、「芽室町いじめ防止基本方針」を定めており、各学校では、いじめは絶対許さないという考えのもと、指導を行っています。また、スクールライフアドバイザーを配置し、保護者等への助言・相談及び学校や関係機関との連携等を図っております。 小・中学校の統廃合については、現時点で御指摘のような議論が進んでいる状況ではありませんが、現芽室町立小中学校配置計画は令和8年度までであり、計画更新時には改めてアンケート調査の実施、保護者、学識経験者等の御意見を踏まえながら、学校の在り方等について検討していきます。
3	上美生小学校、中学校の存続はせず、町の学校と統合してほしいと思っている親たちのうちの1人です。 現在、そしてこれから小学校、中学校に入る周りの親からも町の学校へ通わせたいと思っている声を最近よく聞きます。これからの子育て世代の意見より、もう子育てが終わっている人の意見が強く反映されてるのでは？と思ってしまいます。 残す方にお金をかけるなら給食費を無償や補助、出産時にお祝い金などに使って欲しいです。せめてどうしても山村留学を継続したいのなら上美生地区の子ども達に上美生の学校か町の学校かを選択させてほしいなと思います。	無	通学区域等については、保護者や地域の方々によって様々な考えがあると理解しています。 その上で、芽室町立小中学校の通学区域については「芽室町立小、中学校通学区域に関する規則」で定めると共に、芽室町立小中学校配置計画(現計画期間：平成31年度年から令和8年度)の策定の際にはアンケート調査を実施し、学識経験者や保護者代表の方等から御意見をいただき決定しております。 次期、計画更新時には改めてアンケート調査の実施、保護者、学識経験者等の御意見を踏まえながら、学校の在り方等について検討していきます。